

福島県立医科大学 学術機関リポジトリ



Title	放射線災害医療学講座(論文・著書・発表等)
Author(s)	
Citation	福島県立医科大学業績集. 2: 308-311
Issue Date	2022-03-22
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/1766
Rights	©2022 福島県立医科大学
DOI	
Text Version	publisher

This document is downloaded at: 2024-04-25T04:25:17Z

放射線災害医療学講座

論 文

〔原 著〕

Iyama K, Ikeda S, Inokuma T, Sato S, Yamano S, Tajima G, Hirao T, Nozaki Y, Yamashita K, Kawano H, Maemura K, Tasaki O. How to Safely Prevent Venous Thromboembolism in Severe Trauma Patients. *International Heart Journal*. 202009; 61(5):993-998.

Iyama K, Takano Y, Takahashi T, Hasegawa A. Factors associated with the intention to participate in activities during a nuclear disaster situation among firefighters. *Journal of Radiation Research*. 202011; 61(6):871-875.

Ohba T, Ishikawa T, Nagai H, Tokonami S, Hasegawa A, Suzuki G. Reconstruction of residents' thyroid equivalent doses from internal radionuclides after the Fukushima Daiichi nuclear power station accident. *Scientific Reports*. 202002; 10(1):3639.

Ohba T, Ishikawa T, Nagai H, Tokonami S, Hasegawa A, Suzuki G. Author Correction: Reconstruction of residents' thyroid equivalent doses from internal radionuclides after the Fukushima Daiichi nuclear power station accident. *Scientific Reports*. 202004; 10(1):6262.

林卓哉, 真船浩介, 松田尚樹, 長谷川有史, 加藤尊秋, 神田玲子, 島田義也, 佐藤健一, 森晃爾, 立石清一郎, 香崎正宙, 岡崎龍史. 福島第一原発作業者に対する放射線知識と不安に関する質問調査. *産業医科大学雑誌*. 202012; 42(4):339-346.

安藤秀律, 竹林由武, 長谷川有史, 林田直美, 村上道夫. 福島県と静岡県消防職員の原子力災害への準備性とその関連要因の解明. *福島医学会雑誌*. 202012; 70(3):151-159.

〔総説等〕

長谷川有史. 災害医療体験記 (第12回) 福島第一原発事故急性期の経験 COVID-19との類似点・相違点. *救急医学*. 202009; 44(10):1324-1329.

井山慶大. 【ICU治療指針 III】中毒と管理 放射線障害 急性放射線症候群 (ARS) . 救急・集中治療. 202003; 31(4):1870-1875.

井山慶大. 福島リポート (第31回) 長崎から福島に移って見えてきたもの. *日本医事新報*. 202003; (5002):52-54.

〔症例報告〕

Iyama K, Kawano H, Ando T, Ikeda S, Maemura K. Sudden onset of thyrotoxicosis induced by amiodarone mimicking low cardiac output syndrome in a patient with dilated cardiomyopathy. *Journal of Cardiology Cases*. 2020; 22(2):81-84.

Kawano H, Iyama K, Abe K, Ishijima M, Yonekura T, Koga S, Ikeda S, Maemura K. A case of chronic myocarditis. *Pathology International*. 2020; 70(10):793-797.

〔その他〕

小池祐未, 上澤紀子, 橋本京子, 保坂ルミ, 栗原由美, 長谷川有史, 菅原茂耕, 織内昇. 核医学治療患者の急変対応システム整備 多職種シミュレーションに向けて. *核医学*. 2020; 57(Suppl.):S110.

齋藤清, 長谷川有史. ふくしま国際医療科学センター～福島を経験をサイエンスとして展開し、世界が共有できる未来をめざして～. *目で見る WHO*. 2020; (74):12-13.

神田正輝, 井山慶大, 長谷川有史. 新開発シャツ型心電計の災害時危機対応における生体モニタリングへの応用. *日本救急医学会雑誌*. 2021; 31(11):1109.

永田高志, 有嶋拓郎, 長谷川有史, 山村仁, 赤星朋比古, 廣橋伸之, 宇佐俊郎, 花田裕之, 山口芳裕, 坂本哲也, 明石真言. 原子力災害拠点病院 BCP ワークショップ開発と実施. *日本救急医学会雑誌*. 2021; 31(11):1912.

孔秀和, 井山慶大, 長谷川有史. 福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえた原子力災害における病院 BCP の提案. *日本診療放射線技師会雑誌*. 2021; 67(12):1327.

佐藤良信, 長谷川有史. 交流集会「医療職が積極的に原子力災害に関わる意識を啓発するためには？―意識に影響を与える因子の検討―」. *日本放射線看護学会誌*. 2020; 8(1):55.

長谷川有史. 救急医療の視点から見た原子力災害と放射線リスク 私たちが学んだリスクの相場観. *法医学の実際と研究*. 2021; (63):179.

過年業績

林卓哉, 松田尚樹, 長谷川有史, 佐藤健一, 立石清一郎, 加藤尊秋, 神田玲子, 蓑原里奈, 森晃爾, 岡崎龍史. 放射線教育プログラムによる放射線業務従事者の知識向上と不安低下度の定量的解析. *産業衛生学雑誌*. 2019; 61(臨増):453.

著書・訳書

長谷川有史. 急性放射線障害. In: 福井次矢, 高木誠, 小室一成 総編集. *今日の治療指針 私はこう治療している* 2020年版. 東京: 医学書院; 2020. p.1098-1099.

井山慶大. 放射線障害：急性放射線症候群（ARS）. In: 岡元和文 総監修. 重症患者診療指針. 東京: 総合医学社; 202010. p.1234-1239.

研究発表等

〔研究発表〕

Iyama K, Ikeda S, Yonekura T, Koga S, Tsuneto A, Kawano H, Maemura K. A Novel Prophylaxis of Venous Thromboembolism with Routine Administration of Unfractionated Heparin after Severe Trauma. 第 84 回日本循環器学会学術集会; 20200727-0802; Web.

長谷川有史. 原子力災害後の放射線不安・関心事の経時的変化. 第 25 回日本災害医学会総会・学術集会; 20200220-22; 神戸.

大葉隆, 石川徹夫, 永井晴康, 長谷川有史, 深谷紀元, 鈴木元. 福島第一原発事故時の吸入による小児甲状腺線量の分布と避難行動パターンの関連性の解析. 第 76 回日本放射線技術学会総会学術大会; 20200515-0614; Web. 予稿集. 76:1327.

高橋司, 井山慶大, 村上道夫, 長谷川有史. 救急救命士を目指す学生における原子力災害対応への意識とその要因の解明. 第 23 回日本臨床救急医学会総会学術集会; 20200827-28; 東京. 日本臨床救急医学会雑誌. 23(3):455.

井山慶大, 長谷川有史. 消防学生と消防士における、原子力災害活動に対する従事意図の実態. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118-20; 岐阜. 日本救急医学会雑誌. 31(11):1908.

長谷川有史, 菅谷一樹, 井山慶大. 2019 年度韓国原子力防災訓練参加報告：我が国の原子力防災訓練との比較から. 第 48 回日本救急医学会総会・学術集会; 20201118-20; 岐阜. 日本救急医学会雑誌. 31(11):1910.

〔招待講演〕

井山慶大, 猪熊孝実, 立川温子, 上村恵理, 泉野浩生, 山野修平, 田島吾郎, 平尾朋仁, 野崎義宏, 山下和範, 田崎修. 外傷後静脈血栓塞栓症を安全かつ効果的に予防するための提案. 第 34 回日本外傷学会総会・学術集会; 20201207-08; Web.

〔その他〕

Takano Y, Iyama K, Kobayashi T, Murakami M, Hasegawa A. Proposal of construction of support and support system in firefighting organizations from the viewpoint of group interdependence. The 4th International Symposium of the Network-type Joint Usage/Research Center for Radiation Disaster Medical Science; 20200212; 広島.

Yoshinaga S (Chair) , Hasegawa A (Chair) . Social impact of a radiation disaster and radiological protection studies:Effective mass communication on health risk. 放射線災害・医科学研究拠点第 4 回国際シンポジウム; 20200212; 広島.

長谷川有史. その後の被ばく医療. ラジオ NIKKEI 医学講座; 20200317.

長谷川有史. 2011.3.11、その時現場では: 福島県立医科大学附属病院「救急医失格」. 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; 福島. 講演要旨集. 18.

長谷川有史 (座長), 高村昇 (座長). 危機時のクライシスコミュニケーション: 誰が、いつ、どこで、どのように行うのか (放射線災害を中心に). 日本放射線影響学会第 63 回大会; 20201015-16; 福島.

リハビリテーション医学講座／リハビリテーションセンター

論 文

〔原 著〕

藤井正純, 二村美也子. 言語に関連する解剖構造を読影する方法. 高次脳機能研究. 202006; 40(2):217-226.

二村美也子. 専門医に求められる最新の知識 脳腫瘍 これであなかも「失語症」のことが話せるようになる! Let's talk about "aphasia". 脳神経外科速報. 202002; 30(2):184-192.

〔その他〕

過年業績

大井直往. 失敗から学ぶということ 心に残ったできごとーリハビリテーション科の現場から. Journal of Clinical Rehabilitation. 201910; 28(11):1122-1123.

著 書・訳 書

鈴木秀基. THA 後において体幹に対する理学療法が有効であった症例. In: 対馬栄輝. 人工股関節全置換術の理学療法 明日の臨床を変える Art & Science. 東京: 文光堂; 202010. p.311-319.

鈴木秀基. 生活指導・ホームエクササイズのパフレット. In: 対馬栄輝. 人工股関節全置換術の理学療法 明日の臨床を変える Art & Science. 東京: 文光堂; 202010. p.326-344.

鈴木秀基 (分担執筆). In: 木村貞治, 対馬栄輝 監修. EBPT 用語集 (Web). 一般社団法人日本理学療法学会連合; 2020.